

## ◆生ごみの減量化



げんかわ ますこ  
源川磨須子さん  
(大津)

生ごみは可燃ごみの約4割を占めており、水分を多く含んでいるため、かなりの重さがあります。ごみ処理費は、重さによって決まるので、処理費を削減するためには生ごみを減らすことが大切です。「生ごみ処理容器（コンポスト）」を使うと、生ごみを減量化することができます。

実際にダンボール製のコンポストを利用して源川磨須子さんに話を聞いてみました。



コンポストとは、生ごみなどの有機ごみを微生物や電気を使って短期間のうちに堆肥化し、生ごみを減量化する容器

ダンボールコンポストを使い始めたきっかけは、町主催の説明会です。説明を聞いてすごく画期的な方法だと思い、自分も始めてみました。

ダンボールコンポストは、生ごみを入れたらひとかき程度かき混ぜるだけなので、あまり手間はかからないと思います。水に濡れると使えなくなるので、濡らさないように注意することと水分調節をうまく行えば、あ

とは難しくありません。

メロンやスイカの皮などの大きな生ごみは、小さく刻んでから入れると早くなります。他に、みそ汁の具や魚の煮付けなどを入れると普段より発酵し、良い堆肥ができるような気がします。

うちは家族が多いので2箱使用しています。家族の人数に応じて箱を追加しても良いと思います。

コンポスト自体に熱がこもっているのは活発に微生物が活動している証拠なので、冷えてきたら生ごみを入れ、長時間冷えた状態にしないように心掛けています。入れるものが無くてかき混ぜるだけでも良いです。

私は以前から、家庭から出るごみはなるべく軽くして出したいと思っていました。生ごみの堆肥化もいろいろ試してみましたが、失敗ばかりで本当に困っていました。

このダンボールコンポストを始めたことで、生ごみの量がものすごく減ったので、とてもうれしく思います。できた堆肥は

家庭菜園に使っていますが、この堆肥のおかげで野菜も元気に育っています。

ダンボールコンポストは、生ごみを入れても入れてもコンポストの中の生ごみはなくなってしまうので、本当に不思議で、微生物のすごさを感じることができます。

とにかく続けることが大事ですが、ほとんど手間がかからず、不用になったダンボールを利用でき、安価なので、初めて挑戦する人も続けられると思います。

大津町では、家庭から出される生ごみを処理する「生ごみ処理容器（コンポスト）」を購入した家庭に対し、代金の一部を補助しています。生ごみ処理容器はダンボール製のコンポストの他に、密閉式や電動式などさまざまなタイプがあるので、自身のライフスタイルに合わせ選択してみてもいいでしょう。

また、生ごみ処理容器を使わない人も、生ごみを捨てる前に「ひと絞り」して水気を切るだけでも減量に効果があります。



できた堆肥は家庭菜園などで使用しています

## 踏み出したその一歩

増え続けるごみ。ごみを減らしたり、再利用したりすることは、一人一人の行動から始まります。「地球温暖化防止」・「循環型社会の構築」へ向け、自分ができるその一歩を踏み出している人たちをご紹介します。

## ◆再生資源の集団回収

再生資源集団回収のメリットはリサイクルの推進だけではありません。集団回収分は町で処理を行わないため、処理費用の負担軽減にもつながります。(平成23年度回収実績：約450t、登録団体数61団体)

町ではこの取り組みがさらに広がるように、登録団体を募集しています。



### 《再生資源集団回収団体を募集しています》

以下の条件を満たせば、町への登録ができます。多くの登録をお願いします。

- ①大津町内の住民で構成されていること
- ②営利を目的とした団体でないこと
- ③再生資源の集団回収を年2回以上行うこと

これから先、もう少し利用者が増えて欲しいと思っているので、区の会議での呼びかけや、掲示板での啓発、回収当日の放送などを行っています。

ごみステーションに資源ごみが置いてあるのを見かけるたびに「お金が捨ててある…もったいないなあ…」と思います。ごみ処理費用も私たちの税金で払っていることをもっとたくさんの人に理解してもらえると、集団回収の利用も増えていくのではないのでしょうか。

分別した資源物を近くのごみステーションに出すか、少し遠くはなれるけれど集団回収に出す

か…。

少し意識を変えるだけで、団体にとっても、町にとっても有効に処理ができることを皆さんに知ってほしいです。

私は、この集団回収事業はとても面白いというか、奥が深い活動だと思っています。利用が増えれば増えるほどいろいろな活動ができる可能性が出てくるからです。

地域が活性化するだけでなく、環境にも町にも有効なこの活動の利用者が、今後もっと増えてくれれば良いと思います。

ごみのリサイクルに有効な方法の一つに「再生資源集団回収」があります。これは、町に登録した団体（子ども会や行政区など）が家庭の資源ごみを独自に回収するものです。町では、活動団体に対し、回収量に応じて補助金を交付しています。

今回は登録団体の一つであるあけぼの区の豊住幸夫さんに話を聞きました。



あけぼの区の再生資源集団回収



とよすみゆき お  
豊住幸夫さん  
(室)

この活動は、役場から依頼されて始めました。日頃から「資源ごみを出すのはもったいない」と思っていたので、ちょうど良いタイミングだと考え、活動を始めました。

あけぼの区は全体で約400世帯ありますが、約150世帯がこの集団回収を利用しています。ごみを持ち込んでくれた人にはお礼として、町指定のごみ袋を1枚ずつ配っています。こ

の活動のおかげで区の活動費に余裕ができました。このごみ袋もそうですが、通学用の旗や集会所の備品代などもここから出しています。

また、集団回収は、資源物を出しにきた高齢者の安否確認や子どもたちへの声掛けの場にもなっています。今後は来られない高齢者に対し、資源ごみが溜まっていないか訪問活動ができたらいいなと思っています。